

第5学年 社会科学習指導案

は組 男子16名 女子17名 計33名
指 導 者 上江洲 洋 志

1 小単元 自然災害に備える

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに、世界や日本の近隣の海洋や大陸の広がり、世界における日本の位置と領土について地球儀や地図を活用して調べたり、白地図にまとめたりする活動を通して、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土についてとらえてきている。また、国土の主な山地や山脈、平野、川などの地形や地域による気温と降水量の違いなどの気候の概要について追究することを通して、国土全体の地形や気候の特色をとらえてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、国土の環境と人々のくらしとのかかわりについて関心をもち始めている。

そこで、本小単元では、我が国では地震や津波、風水害や土砂災害といった自然災害が起こりやすいことや、その被害を未然に防いだり軽減したりするために国や自治体が様々な対策や事業を進めていることを具体的にとらえさせるものである。また、写真やグラフ、地図や表などを活用し、様々な自然災害対策の意味について、実際に取り組まれている事象と関連付けながら考えたことを表現することができるようにするものである。

このような学習は、地形や気候に特色がある地域に住む人々のくらしについて追究する学習へと発展してくものである。

(2) 指導の基本的な立場

我が国は、その位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、台風、豪雨、豪雪、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火などによる災害が発生しやすい国土となっている。本県においても桜島の噴火土石流災害をはじめとして、大雨や台風による災害がこれまでに発生している。このような自然災害が発生しやすい状況の中で、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による甚大な物的、人的被害を契機として、防災に対する社会全体の意識が高まり、国や自治体のみならず、地域や市民とも連携を取りながら対策や事業が行われている。

そこで、ここでは、我が国は、自然災害が起こりやすい国土の自然環境にあることや、自然災害による被害を防止したり軽減させたりする必要性やそのための社会の仕組みについてよりよく理解させるために、我が国における自然災害の発生の概要を取り上げるとともに、具体的事例を基に防災のための国や自治体、地域や市民の取組の意味について考えさせていく。その際、自然災害の発生とその対策について、自分とのかかわりでとらえ、主体的に追究させていくために、鹿児島県内や鹿児島市内で発生した自然災害や、桜島の噴火や土石流発生に伴う自然災害を想定した現在の県や市の対策や事業を取り上げていく。

そのために、まず、東日本大震災の概要をはじめとする国内や県内で発生した災害について調べる学習を基に、我が国は自然災害が発生しやすい国土であることをとらえるとともに、「自然災害が発生しやすい国土の中で、わたしたちのくらしを守るためにどのような取り組みがなされているのだろうか。」という問題意識をもたせ、自然災害の防止や軽減のための取組について追究したいという意欲を高めさせたい。次に、一人一人の予想を基に、追究計画を立てさせ、写真やグラフ、表や地図等の資料を基に、自分なりに気付いたことを「公助」「共助」「自助」の柱で追究させていく。その際、桜島の噴火や火砕流の発生を想定した国や鹿児島県、市の取組について取り上げ、**桜島に実際に設置されている施設や設備、行われている事柄に関する資料を活用し、調べた事実を基にその意味について考え、話し合わせながら整理させていく。**さらに、追究したことを基に、桜島の噴火や土石流発生に伴う災害に備えた対策について新聞にまとめ交流する活動を設定することで、自然災害とその防止や軽減に関心をもつとともに、自分の生活とのかかわりについて考えを深

めることができるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、自然災害の発生に備えるための取組の意味について分かる楽しさを味わいながら、自然災害防止の重要性についての関心を深め、国土への愛情を育てていくことができる。

(3) 子どもの実態(調査人数33名, 質問紙法, 重複回答, 主な項のみ記述)

項目 1	自然災害への興味関心(複数回答) 災害の種類や事例(22) 国や県の対策(21) 災害が起こる仕組み(16) 身近な場所の防災の現状(10)
項目 2	自然災害の種類(複数回答) 地震・津波(31) 台風(22) 大雨・洪水(16) 土砂崩れ(11) 火山噴火(10) 竜巻(10) その他(4)
項目 3	県内の主な災害(複数回答) 8・6水害(10) 大正大噴火(10) 台風全般(8) 新燃岳, 口永良部島噴火(4)
項目 4	防災のための取組(複数回答) 【国や県, 市】避難場所や案内板の設置(8) 防災無線(5), 堤防等の整備(2) 【学校や地域】避難訓練(12), 食料の備蓄(8) 【各家庭】避難場所の確認(14), 非常用持出袋(8) 【その他】建物の耐震化(3), 避難ビル(2)
項目 5	資料活用の技能 ①表 最大(17), 最小(9), 全体の傾向(7) ②グラフ 変化(19), 最大(10), 最小(4) ③地図 方角(29), 位置関係(25), 分布(23) ④写真 場面(31), 行動(30), 周囲の様子(28)
項目 6	社会的な思考力, 判断力, 表現力(主に思考力) 比較 差異点(32), 共通点(28) 関連付け(27)
項目 7	まとめ方 新聞(14) マップ, マニュアル(10) ポスター(9)

この学級の子どもたちの、自然災害とその防止についての見方や考え方は次のとおりである。

単元の学習で追究したいことについては、災害の種類や、災害に備えた対策に関心をもつ子どもが多い(項目1)。これは、これまでの学習や生活経験を通して、自然災害の存在を子どもたちが知っており、防災に対する意識が高まっているからであると考えられる。次に、具体的な災害の種類については地震や津波を挙げる子どもが多い(項目2)。これは、東日本大震災に関する報道を見聞きした経験からである。それに次いで、台風や大雨、土砂崩れを挙げる子どもが多いのは、自己の生活経験によるものであると考えられる。その一方で、県内で発生した主な自然災害については8・6水害や大正大噴火を挙げる以外は、あまりとらえられていない(項目3)。

また、具体的な防災のための取組については、十分にとらえ切れているとは言えない。その中でも、特に、行政の取組については、とらえている子どもが少ない(項目4)。これは、生活の中で見聞きする事柄と防災に関する社会の仕組みとを関連付けてとらえられていないためであると考えられる。資料活用の技能については、グラフや地図、表にかかれてあることを自分なりの観点をもって読み取ることができる(項目5)。また、資料に書かれている事柄同士を比較したり、関連付けたりして自分の考えをもつことができる(項目6)。さらに、まとめ方については、これまでも取り組んできた新聞作りのほかに、単元の特性から自己の生活に生かす防災マップやマニュアル作りを挙げる子どもが多い(項目7)。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえ、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

我が国は、自然災害が起こりやすい国土の自然環境にあることを踏まえ、自然災害による被害を防止したり軽減させたりする必要性やそのための取組についてよりよく理解させるために、「国や県, 市による取り組み(公助)」「地域における取組(共助)」「家庭や自分たちができること(自助)」を追究の柱として追究させる。その際、資料をからとらえた具体的な事実と、その意味とを関連付けて考え、互いの考えを全体で話し合わせることでとらえさせていきたい。

ア まず、3月に行われた防災給食について振り返り、その契機となった東日本大震災やそのほかのこれまでに国内や県内で発生した主な自然災害の種類や発生場所を調べ、地図にまとめる活動を基に、我が国が自然災害が発生しやすい国土であることをとらえさせる。そして、そのような国土の中で実際に自分たちが生活しているという事実から、「自然災害が発生しやすい国土の中で、わたしたちの暮らしを守るためにどのような取組がなされているのだろうか。」という問題意識をもたせ、自然災害の発生に備えるための対策について追究していきたいという意欲を高めさせていく。

イ 防災対策や事業にかかわる人を予想させることで、「公助の取組」「共助の取組」「自助の取組」の三つの追究の柱を立てさせ、追究させていく。その際、社会的事象の意味を考える根拠となる事実を具体的にとらえさせるために、実際に設置されている施設や設備、行われている事柄

を写真や実物、パンフレットといった資料を活用させていく。また、とらえた事実と、各々の事実が防災上果たす効果とを関連付けて話し合わせていく。さらに、それぞれの視点に基づく取り組みの限界性を話し合わせることで、国や自治体、地域、家庭が相互に連携、協力し合い、社会全体で自然災害の発生に備えた対策を講じていくことの必要性をとらえさせていく。

ウ 追究したことを基に、小単元の学習問題に対するまとめを話し合うとともに、新聞にまとめる活動を設定する。その際、追究の柱である「公助」「共助」「自助」の三つの立場を関係図や文章で表現させるとともに、自分にできることを記事の内容に盛り込ませる。

3 目標

- (1) わが国の自然災害の様子や防止に向けた取組の様子に関心をもち、自然災害発生の概要や、国や自治体、地域や家庭それぞれの立場における取組の様子を主体的に調べたり、調べたことを基に、自然災害の防止のために自分にできることについてまとめたりすることができる。
- (2) 様々な自然災害対策の意味について、実際に取り組まれている事象と関連付けながら考えたことや、自然災害の防止や軽減のために自分にできることについて考えたことを説明することができる。
- (3) わが国の自然災害の様子や防止に向けた取組の様子について、表やグラフ、写真などの資料を活用して必要な情報を集めるとともに、調べて明確になったことをまとめることができる。
- (4) わが国は、自然災害が起こりやすい国土の環境にあり、国及び自治体が災害を防止したり軽減したりするための対策や事業を進めていることや、災害の防止や軽減には、国民一人一人の協力及び防災意識の向上が必要であることをとらえることができる。

4 指導計画(全7時間)

学習過程	主な学習活動	子どもの思考の流れ	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる	1 国内や県内で起こった主な自然災害について調べ、学習問題を設定する。 自然災害が起こりやすい国土の中で、災害から、暮らしを守るために、どのような取組がなされているのだろうか。	大きな地震が起きている。大雨による水害も起きている。 日本では、様々な自然災害が発生しているんだな。 自然災害はどうしても発生してしまうけれども、被害をできるだけ小さくするために、どんなことに取り組んでいるのかな。	㊟ 写真(東日本大震災、防災給食の様子他) ㊟ 年表(国内や県内で起こった主な自然災害) ㊟ 地図(日本地図) ○ 日本は自然災害が起こりやすい国土であることをとらえさせるために、年表から読み取った自然災害を地図にまとめて概観させ、気づきを話し合わせる。 ㊟ 写真(大正大噴火記念碑) ○ 自然災害に対する取り組みへの問題意識を高めさせるために、記念碑に刻まれた文の一部を提示し、「桜島の噴火は防げない」に続く言葉を話し合わせる。その後、防災にかかわる人を話し合わせ、3つの追究の柱につなげさせる。
調べる	2 互いの疑問や関心を基に、調べる内容や方法を話し合い、追究の計画を立てる。 【調べる内容：追究の柱】 ○ 国や県が行っていること(公助) ○ 地域で行っていること(共助) ○ 家庭や自分自身が行うべきこと(自助) 3 国や自治体が進めている対策や事業について話し合う(公助)。 【施設や設備】 ・砂防堤 ・カメラや情報板 ・退避壕や避難場所 【意識や行動】 ・避難訓練 ・防災マップ ・出前授業 防ぐ/軽くするため → 自分で対応するため 自然災害を防ぐ仕組み作り 協力	国や県、鹿児島市の働きが関係ありそうだな。避難訓練など、自分の行動も関係ありそうだな。 三つの立場から、パンフレットなどを使って調べていこう。 国や県、鹿児島市はどんな取り組みをしているのかな。 災害情報や避難場所の確保などを行っているよ。協力しながら個人では出来ないことをしているよ。	㊟ 写真(情報掲示板、砂防堤他) ○ 自然災害を防ぐために、国や自治体が協力しながら様々な対策や事業をしていることをとらえさせるために、桜島の噴火に備えた対策や事業を取り上げる。その際、具体的な事実を「施設や設備」「意識や行動」の視点で整理するとともに、それぞれの視点に関する事実の防災上の意味を話し合わせる。 ㊟ 写真(避難場所の看板、避難訓練他) ㊟ 地図(防災マップ) ○ 地域住民同士が協力して桜島の噴火災害に備えていることをとらえさせるために、前時で用いた視点で追究させていく。その際、取組を実際に機能させていくために必要なことを話し合わせることで、「住民同士の協力」が前提にあることをとらえさせる。
まとめる・広げる	4 地域の取組について話し合う(共助)。 【施設や設備】 ・避難場所 ・消防団 【意識や行動】 ・避難訓練 ・記念碑 住民同士の協力を目指す取り組み 5 家庭や自分自身が行うべきことについて話し合う(自助)。 ・避難場所や経路 ・非常持ち出し袋 ・報道の確認 【意識】【行動】 【もの】の備え 5 調べ、話し合ったことを基にこれまでの学習をまとめる。 自然災害が起こりやすい国土の中で、災害から私たちの暮らしを守るために、国や都道府県、地域住民などが協力して、計画的に様々な対策や事業を進めている。	地域に住むみんなが参加したり、実際の災害の時に声を掛け合ったりすることが大切だね。個人では何かできないのかな。 危険個所の点検や防災マップの作成をしているよ。避難訓練をみんなですしているよ。 災害の時に、どこを通過して、どこに避難すればいいか話し合っているよ。家や学校では、災害に備えて食料品を用意して保存しているよ。 一人一人ができることを考え行動することが大切だね。 国や県、地域、自分たちそれぞれが、それぞれの立場で様々なことに取り組むことで自然災害に備えているんだね。	㊟ 実物(非常持ち出し袋、校内備蓄品) ○ 災害から身を守るためには、自分自身の備えや意識の行動も大切であることをとらえさせるために、家庭や学校で取り組んでいることや、今後取り組みそうなことを話し合わせる。 ○ 追究してきたことを新聞にまとめさせる。その際、「公助」「共助」「自助」の3つの立場の関係を言葉や図で明確に表現させるようにする。
②	6 追究してきたことを新聞にまとめ、交流し合う。		

5 本 時 (3 / 7)

(1) 目 標

桜島の火山災害に備えた対策や事業を具体的に追究する活動を通して、施設や設備を整えたり、人々の意識や行動を高めたりすることの意味について、防災上のねらいや効果と関連付けて考えることで、国や自治体が様々な防災のための対策や事業を行っていることをとらえるとともに、国や自治体相互の協力や地域との連携といった関係を説明することができる。

(2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、国や自治体が協力、連携して桜島による自然災害への様々な対策や事業を行っていることをよりよくとらえさせるために、資料からとらえた事実と、その事実を取り上げた理由を話し合わせる活動を設定することで、とらえた事実を防災上のねらいや効果と関連付けながら展開していく。

(3) 実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
の 追 究 問 題 化	1 本時における追究問題を確認し、具体化する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 噴火によって落石の被害がある <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; text-align: center;"> ↓ ↓ ↓ </div> 落石だけでなく、土石流でも被害がある。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px; text-align: center;"> それでも人々は住み続けている。 </div>	(分) ↑ 7 ×	㊦ 写真(噴石による被害, 土石流による被害) ㊦ 年表(被害が発生した主な年) ○ 桜島がもたらす自然災害をとらえさせ、その対策についての問題意識をもたせるために、まず、噴石の大きさや土石流が流れ込んでいる場所に注目させる。その際、土石流については教師が補足説明する。次に、年表から被害が繰り返し発生していることをとらえさせ、災害が起きやすいにもかかわらず人々が住み続けている理由を問う。 ㊦ パンフレット(国土交通省, 鹿児島市) ㊦ 写真(砂防堤, 監視カメラ, 退避壕他) ○ 桜島の火山災害に対する国や県、市の対策や事業を具体的にとらえさせるために、パンフレットを根拠として子ども自身が調べた事実を発表し合わせ「施設や設備」「人の意識や行動」の視点で整理させる。 ○ 調べた事実と、防災上のねらいや効果を関連付けて考えながら、その意味をとらえることができるようにするために、自分が書いたり発表したりした事実を取り上げた理由を説明し合わせる(①, ②)。 ㊦ 図(桜島火山における情報ネットワーク) ○ 国と自治体が連携し合って桜島の自然災害への対策や事業を行っていることをとらえさせるために、桜島火山の情報ネットワーク図を基に国と県、市を結ぶ線に着目させ、情報を共有する道筋について気付いたことを話し合わせる(③)。 ㊦ ゲストティーチャー(行政関係者) ○ 話し合ったことの妥当性を検証するとともに、桜島の防災対策や事業についてより深くとらえさせるために、桜島の防災対策にかかわっている鹿児島県の職員の話聞く。また、その際、子どもの追究の意識を「共助」や「自助」といった視点に広げさせるために、国や自治体が整えた防災の仕組みを機能させていくために欠かせないことについて問いかけていただき、子どもに考えさせるようにする。 ○ 追究問題に対する自分の考えを吟味させるために、キーワードを観点として、自分なりに考えた本時のまとめを互いに吟味し合わせる。
	噴火や土石流といった桜島の災害から、人々の暮らしを守るために、どのような対策がとられているのだろうか。 2 追究方法について話し合う。 ○ 追究方法：一人調べ→全体での話し合い。 ○ 活用する資料：教科書、資料系、パンフレット 3 桜島の噴火による自然災害の防止に向けた対策や事業を話し合う。 (1) 国や県、市の対策や事業を話し合う。 (2) 国と県、市の対策や事業にかかわる関係性を話し合う。		
追 究 計 画	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px;"> 【桜島噴火による自然災害対策】 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 施設や設備 ・カメラ, センサー ・情報板, 防災無線 ・退避壕, 避難場所 ・砂防堤 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 人の意識や行動 ・防災マップ ・避難訓練 ・パンフレット ・防災教室 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">被害を防ぐ, 軽くするため</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">住民自身が対応できるようにするため</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> 国・県・市 — 協力, 連携 — 国・県・市と住民 </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> ↓ 自然災害を防ぐ仕組み作り </div> </div>	30	
追 究 問 題 の 究 明	5 本時の学習をまとめる。 国と県や市、住民が協力して、施設や設備を整えたり、住民の意識や行動を高める取組を行ったりしながら自然災害を防ぐ仕組み作りを行っている。 6 本時の学習について振り返り、次時の追究への見通しをもつ。 ○ 地域では、どのような取組をしているのだろうか(共助)。	8 ↓	
ま と め			